

問 認知症予防対策をどのように取り組んでいくのか

答 地域生き活きサロン等の普及・拡大、シルバーリハビリ体操の利用促進、早期発見につながる保健指導の継続実施などを総合的に取り組んでいく

農業の担い手対策について

問 少子高齢化による農業の担い手不足

に対して、本市の特性を生かす振興策に取り組む必要があると思うが、市の考えは。

答 農林業センサスの平成22年と27年の調査結果を比較すると農業就業人口が29%減少するとともに、平均年齢は65・0歳から65・9歳に上昇しており、就業者の減少と高齢化が課題であると分析している。

こうした現状を踏まえ、就業者の確保対策として市独自の新規就業者研修助成や国の農業次世代人材投資資金などによる支援に加え、関係機関と連携して農業への定着に向け

たフォローアップを行い、担い手の育成を図っている。また、農地中間管理事業により、担い手への農地集積を推進しており、集積率は平成24年度末の51%から平成30年度末の64・4%へと約13ポイント上昇している。

就業者の高齢化については、既存の農業法人において、構成員の高齢化に伴う労働力の低下が懸念されるため、農業経営セミナーを通じ、雇用体制の構築やスマート農業に関する先進事例を紹介するなど、引き続き農業経営体の人材確保と省力化対策に取り組んでいく。

田中 孝一 議員
(清風会)

質問した項目

■農業の担い手対策について ■耕作放棄地について ■山菜等の地場産品の活用について ■高齢者の生活支援について ■認知症予防の取り組みについて ■中高生の地元就職意識対策について ■市道除雪、間口除雪の現状及び課題について ■宅地・建物データバンクについて



録画配信はこちらから

問 災害時の人工透析体制は

答 秋田県透析災害ネットワークにより災害援助体制が整備されている。状況に応じてヘリコプターによる搬送を含めて検討し治療が継続されるよう対応する

人工透析治療施設の拡充整備について

問 透析患者の増加に伴い、介護保険施設内で透析を受けられるシステムの構築が望まれるが、市の考えは。

答 透析治療を行える施設の設置は多額の費用がかかり、加えて、医師・スタッフの確保も必要であることから難しいが、介護施設を運営する法人から、施設整備の意思が示された場合は、介護保険事業計画との整合性を図りながら協議を行っていく。

質問した項目

■人工透析体制について ■鹿角シティマラソン（仮称）の開催について

戸田 芳孝 議員
(無会派)

鹿角シティマラソン（仮称）の開催について

問 鹿角シティマラソン（仮称）の開催概要は。

答 実施時期は令和2年10月または11月の秋、コースはふるさとあきたランや十和田八幡平駅伝の一部を使用し、種目はハーフマラソン・10キロ・5キロ・3キロと1キロのラン&ウォークを実施する方向で調整を行っている。

るに当たり、条件や制限はあるか。

答 過去には入所していたケースもあり、入所申込者の介護度や家族の介護状況などを考慮しながら、条件や入所の可否を施設が判断することとなる。



録画配信はこちらから